

図書館だより



No. 11

平成 27 年 3 月 20 日発行

1日、1日と春に近づいてきている今日この頃、日差しの暖かさから心地よさと幸せを感じています。桜の開花のニュースを気にしたり、春色の洋服を手にとったりしている時にも春だなあとしみじみ感じています、みなさんはどんな瞬間に春を感じているでしょうか。



さて、3月14日にいよいよ北陸新幹線が開業しました。

東京ー金沢・富山間が結ばれることによって、関東から北陸への旅に出かけやすくなりました。金沢といえば日本三大庭園のひとつである兼六園や21世紀美術館、富山といえば世界遺産にもなっている五箇山合掌造りや黒部ダムなどがそれぞれ有名な観光地として全国に知られています。新しい新幹線に乗れる楽しみも加わり、北陸への旅がますます盛り上がりを見せてくれそうです。この機に一度は行ってみたい旅先ですね。なお、この北陸新幹線は2025年度末には、さらに福井県の敦賀まで繋がる予定となっています。

新幹線って、すごい*

686-p 『新幹線のすべて』 笹倉出版社

新幹線って、乗るといつもちょっと特別な感じがして、ワクワクした気持ちになれる乗り物ではないでしょうか。そんな新幹線がいかにもすごいか、その魅力が満載となって紹介されている本です。パッと目につく新幹線の魅力はその見た目ですが、それだけでなく、内装も新幹線によって雰囲気が異なり、比べてみるとおもしろいです。それぞれのロゴマークとその由来にも注目してみてください。その他、製造コストにかかる費用に驚いたり、新幹線を支える技術の数々に感嘆のためいきがもれたり、乗るだけでなく、知ることでもワクワクした気持ちになれます。

金沢の魅力*

291-c 『ことりっぷ 金沢 北陸』 昭文社

誰もが知る金沢の観光名所だけでなく、古都金沢の魅力を感じられる武家屋敷跡や茶屋街の紹介、加賀友禅や丸谷焼など伝統工芸の体験ができる場所の案内なども充実しています。その他にも、趣のある建物で、おいしいスイーツをいただける町屋カフェやおみやげにぴったりの和菓子や小物など、女子旅がさらに楽しくなる情報も満載です。

金沢の見どころ、食べどころ、楽しみどころをばっちり押さえた上で、何をメインにした旅をしようかなどまずは想像をふくらませて、旅気分を味わってみましょう。

図書館カレンダー

3月

4月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 4 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 15 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

□ 開館日 ■ 閉館日

春にぴったり！心があたたかくなる本

B913.6-2 『小野寺の弟、小野寺の姉』 西田 征史 || 著 幻冬舎

小野寺進33歳、小野寺より子40歳。姉弟仲よく…と本人たちは思っていないのだろうけど、傍から見れば仲のいい姉弟で共同生活を送っている。おかつぱ頭がトレードマーク(小野寺の姉ちゃんカットと呼ばれている)の真面目で働き者なより子と、のんびり屋でどこか頼りない進。くじ引きで当たった花やしきへお互い誰も誘うことができず、姉弟で出かけた時、弟の恋のチャンスに俄然はりきってみたり、なのに自分の恋愛には空回ってしまったり、いい年して姉弟喧嘩して仲直りのきっかけを掴めずにいたり、ふたりのやりとりを読んでいると、ほのぼのとします。そして、お互いを大切にしているのが伝わってくる感じがとてもいいです。

913.6-シ 『つむじダブル』 小路 幸也/宮下 奈都 || 著 ポプラ社

こちらは兄妹の物語。小学4年生のまどかと、その兄の由一。まどかは柔道が好き。将来はおじいちゃんの柔道を継ぎたいと思っている。由一は音楽が好き。将来はプロとしてやっていきたい。カッコいいお兄ちゃん、かわいい妹、お互いをそんな風に思えちゃう仲良しの兄妹。そんなふたりの元に漂ってきた家族のひみつの匂い。ひみつなんて一つもない家族とだと思っていたまどかはドキドキそわそわ。由一もまた自分に近づいてくるそのひみつに戸惑いながら、その正体を知ろうと進む。家族のひみつに触れ、ふたりが成長していく様子、自分にはたくさんの大事なものと絆があることに気がついていく様子が優しく描かれています。

未来を切り開くためのキーワード

『未来を切り開くためのキーワード』第10回目のキーワードは“図書館を使う”です。

みなさんは今、図書館をどんな目的で利用していますか。読書でしょうか、調べ物でしょうか。くつろぎの時間を過ごしにきている人もいるだろうし、色々な目的で利用されるのが図書館です。図書館は、生涯に渡って、誰もが自由に利用できる場として存在しています。学校には学校図書館があり、街には公共図書館があり、企業によっては社内内に専門の図書館があったりもします。目的や場に応じて、色々な場所に図書館があるのです。図書館をよく知り、使いこなす、生涯学習の場として、いつまでも通ってほしいと願い、未来を切り開くためのキーワードとして最後に“図書館”を選び、本を紹介します。



図書館めぐりのススメ

010-イ 『TOKYO図書館紀行』 玄光社

どの図書館も本があって、カウンターがあって、机と椅子があって…と、みんな同じと思ってしまうませんか。図書館はどこに行っても一緒、では、ありません。それぞれの図書館ごとに特色があり、そこで働く人たちの工夫が凝らされた空間になっています。この本では、都内にある図書館を5つのカテゴリに分けて、紹介しています。長い歴史を感じられる図書館、映画や漫画、天文など、ある分野に特化したコレクションを持つ図書館、個性の光る素敵な図書館がズラリと並びます。

美術館や博物館などに併設されている図書館も多くあるので、寄り道がてら図書館にも足を運んでみたり、気になる図書館をいくつかピックアップしてみたりして、“図書館めぐり”、で楽しく知的な休日を送ってみましょう。

図書館を使いこなす

015-タ 『図書館で調べる』 高田 高史 || 著 筑摩書房

インターネット社会といわれる現代。何か調べたいと思ったら、早くて簡単に情報が手に入るインターネットに頼ってしまいがちですが、インターネットで得ただけの知識は信憑性に欠けます。では、どうやって情報収集をしたらよいのでしょうか。その答えは、“図書館を活用する”です。

まず肝心となるのは図書館の機能をしっかりと知ることです。図書館が調べ物に適しているのは、単に本があるからという理由ではありません。本の分類のしくみを知り、司書の働きを知り、調べ物の手順を知ること、確かな答えに辿りつくことができます。そうした図書館での調べ物のノウハウをこの本は教えてくれます。

図書館の可能性

016-イ 『つながる図書館』 猪谷 千香 || 著 筑摩書房

図書館は本だけでなく、所在する土地とも深く繋がっています。開館時間が長い図書館、年末年始も開館している図書館、カフェが併設している図書館などに留まらず、コンシェルジュがいる図書館、公募館長のもとに町民が作り来館者が7倍に増えた図書館、レシピ本と共に米粉ベーカリーの貸出を行った図書館など、図書館はどんどんと新たな試みを行い、進化をしています。住民にとって、町にとって、図書館として何ができるかを考え、サービスが行われていることがよく伝わってきます。こんなにすごい図書館があるなんてうらやましい！と思うと同時に、私の町の図書館はどんなことをしているのかなと自分の町の図書館に興味湧いてきます。今までの図書館のイメージが変わる本です。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

中村航さんの『小森谷くんが決めたこと』(913.6-コ 小学館)

を読みました。『中村さんの描いた恋愛、友情、夢、成長、家族、そんなものが詰まった普通の男子の物語を読みみたい』という編集者さんのリクエストからこの小説が生まれた。そんな誕生秘話から物語が始まるのが、とても印象的です。そして、さらに主人公が実在の人物であることが、読者を惹き込むポイントになっています。主人公の名は小森谷くん。愛称はモリー。物語は彼の誕生からをひたすら共に辿っていくわけですが、大小の失敗や挫折を繰り返しながら大人になっていく小森谷くんが、自分にとってすごく身近な人のように感じてきてしまい、最後には涙を何度も滲ませながら読む羽目になってしまいました。確かに小森谷くんは普通の男子かもしれない。だけど、これは彼だけの大切な物語だ！そんな感動の思いで本を閉じました。 【今井】



『マルガリータ』(B913.6-ム 文藝春秋 村木嵐 || 著)を読みました。戦国時代末期にローマに派遣された天正遣欧少年使節の話ということで、きっと発見や驚きに満ちた冒険の物語かと思いきや、予想外なことに、帰国後の受難の物語でした。物語はのちに千々石ミゲルと結婚する珠の目線で語られます。なぜ、ミゲルは幼いころから仲間とともに学び、祈りをあげた耶穌会を脱けたのか。なぜ、珠と結婚したのか。なぜ、棄教したと言うのか。珠にはちっともその理由は知らされません。ただ清左衛門と名を変えたミゲルのそばにいて、世話をやくことしかできないのです。ミゲルは政を非情に行う武士の世界からも切支丹からもはじき出されたうえ両勢力から命までも脅かされます。棄教者ミゲルの本当の目的を知ったそこに真の殉教者の姿を見た気がして、そのあまりの清冽な美しさに引き込まれてしまいました。それに引き替え、寺を焼き各宗派と争いながら勢力を伸ばした天主教も、貿易の利益と権力を天秤にかけ天主堂を打ちこわし伴天連を追放した九州の大名たちの醜さに人間の業を思わずにはいられませんでした。

【鈴木】